

## 第3回須賀小学校地域拠点施設検討委員会会議録

### 1 開催日時

令和5年3月27日（月）午後7時00分～午後8時52分

### 2 開催場所

宮代町役場 202 会議室

### 3 出席者

（委員）

佐々木誠委員長、川野達則副委員長、近藤隆委員、石井大晴委員、中村隆委員、上田悟委員、高野桂子委員、谷義明委員、唐松奈津子委員、星野花恵委員、穴戸ゆみ委員、小坂周平委員

（欠席）

乙幡弘子委員、諸星香代子委員

（事務局：教育推進課）

教育推進課長 大場崇明

（事務局：宮代町立須賀小学校の再整備等地域拠点施設整備プロジェクトチーム）

小川雅也（教育推進課教育総務担当）リーダー、

関根雅治（町民生活課地域振興担当）サブリーダー、

吉田直子（子育て支援課こども保育担当）、加藤正久（町民生活課危機管理担当）、

川崎章人（教育推進課生涯学習・スポーツ振興担当）、

高橋道彰（教育推進課教育総務担当）、島村侑希（企画財政課財政担当）、

須原大輔（教育推進課教育総務担当）、福満正寿（総務課人権・男女共同参画担当）、

山下夏鈴（会計室）

（須賀小学校地域拠点施設基本構想策定支援業務受託業者）

株式会社地域デザインラボさいたま 野沢、小野田

### 4 次第

1 開会

2 挨拶

3 視察研修会の報告（愛知県新城市立作手小学校、静岡県焼津市立東益津小学校）

4 須賀小学校地域拠点施設基本構想に関する意見交換

（1）基本構想たたき台についての説明

（2）基本構想に関する意見交換

（3）基本理念（キャッチフレーズについて）

5 その他

6 閉会

## 5 議事（要旨）

### (1) 佐々木委員長より挨拶

基本構想を固めるにあたっては、今回が皆様の意見を反映させる最後の機会になるので、ぜひ積極的な議論へのご参加をお願いいたします。

### (2) 3：視察の報告（愛知県新城市立作手小学校、静岡県焼津市立東益津小学校）について

- 事務局 作手小学校については、数十回ワークショップを実施し、保護者、児童、教職員に対して、この場所で何をやりたいか、ということを中心に意見を聞いたと伺った。本当にやりたい人のために場所を用意するという思いの下で、何をやりたいかをベースに設計を組み立てたとのことだった。
- 上田委員 2校とも、構想のもとに、新しく作った学校なのか。既存の学校施設を改修して作った学校なのか。
- 事務局 作手小学校については、元々小学校があった場所にいくつかの学校を統廃合して新たに作った学校。東益津小学校についても、元々小学校があった場所に、仮設校舎を作るなどしながら、校舎を新設した。
- 唐松委員 2校とも、中庭とは別に、グラウンドやプールがあるのか。
- 事務局 2校とも、校舎の前がグラウンドになっている。作手小学校にはプールはなく、東益津小学校にはプールはあるものの現在は使用していないと聞いている。
- 小坂委員 東益津小学校について、駐車場は、教職員は無料で、保護者や外部者は有料なのか。
- 事務局 無料で使用できると聞いている。
- 佐々木委員長 この2校は須賀小学校よりは小規模な学校なのか。
- 事務局 作手小学校については、各学年1クラスずつ。東益津小学校については、各学年3クラスずつ。須賀小学校は、各学年2クラスずつなので、規模としては2校の間。
- 石井委員 コスト面についても記載があるが、財政的な観点からは、宮代町としては、どのような見解か。
- 事務局 学校と地域拠点施設を建てるのにかなりの金額がかかるので、国や県の補助金を最大限に活用していきたいと考えている。さらに、施設の複合化によって補助率が上がるので今はそこを目指して進めているところ。具体的な金額については、施設の設計が固まらないとわからないが、建設費もかなり高騰している。本施設にどこまで投資するかについては、他の学校の再整備を予定しているので、将来的なことも勘案して、慎重に検討していきたい。実際そこで何をやりたいのかを踏まえて本当に必要なものを作っ

ていく必要がある。

(3) . 4-(1) : 基本構想たたき台についての説明について

事務局より資料「須賀小学校地域拠点施設基本構想～須賀小学校と融合する地域のコミュニティ施設～」に基づき説明を実施。

(4) . 4-(2) : 基本構想に関する意見交換について

上田委員 どのような施設にするかという議論の前提として、まずは小学校の教室の確保が最優先の検討事項。生涯学習施設等については、それが十分検討された上で、話し合うべきこと。

事務局 内部でも、「学校と地域拠点施設があるのか」、「学校は地域拠点施設の機能の中の一つなのか」という点が議論となった。学校は当然あるものとして、また学校機能の重要性については十分理解をした上で、基本構想では、地域拠点施設をどのようにしていくかということに焦点が当てられている。

上田委員 地域の方の中には、須賀小学校がなくなってしまうと勘違いされている方もいらっしゃるので、須賀小学校と生涯学習施設が一緒になるということをきちんと理解していただく必要がある。

佐々木委員長 誤解無きよう、表現については改めて検討したほうが良いかもしれない。

上田委員 学校のプールを廃止して、ぐるるで水泳の授業をするのであれば、プールの跡地を駐車場とすることで施設利用者の利便性高めることができるのではないか。

事務局 その点については基本構想にも記載させていただいている。

唐松委員 基本構想の中にも「宮代町らしさ」を盛り込んでいったほうがよいのではないか。

事務局 「宮代町らしさ」、「須賀らしさ」については、そこまで議論が進んでいないものの、笠原小学校のようにあそこに通わせたいと思う場所になってほしいと思う。住民ワークショップで意見は出ている。

佐々木委員長 宮代町らしさは、捉える人によって色々あると思うが、基本構想中に具体的に書けないにしても、方向性として目指していくのかについては、決めておく必要があるのではないか。

穴戸委員 小学生にとっては町だと広すぎるので、宮代町らしさよりも須賀らしさの方がよいのではないか。須賀小学校の校庭の楓の木はシンボリック的存在なので地域の方々にもわかりやすいのではないか。

近藤委員 アンケート調査の中で宮代町の良い点として、丁度良い田舎感というようなフレーズがあるが、今後、新しいものを取り入れていこうとしている中でマイナスに作用してしまうのではないかという懸念もある。

- 高野委員 須賀小学校の現職の教員からの意見をまとめて提出させていただいた。大きなビジョンを決定するという現段階においては、直接関係ないが、基本構想のたたき台を見た際の職員の率直な意見をまとめていただいたもの。地域のことが前面に出すぎているという点に関しては、教職員も不安を感じているようだ。
- 佐々木委員長 学校機能をしっかりと確保して、先生方の環境も整えてからではないと不安ばかりが先行してしまうという点に関してはごもっともだと思う。
- 高野委員 須賀小学校のシンボルについて、楓の木とサッカーが拳がったが、サッカーは子どもが考えた学校の独自の文化。学校内部の話としてとどめたほうが良いかもしれない。他方で、楓の木については地域の方が保存会を作って守り育てているもの。須賀小学校の特徴として反映されるというのは良いと思う。
- 上田委員 現状の学童は、建物が1か所ではなく、離れてしまっているが、子供たちの活動にも支障があるのではないか。
- 佐々木委員長 基本構想では、児童の利用しやすさという観点が書かれているが、基本計画の段階でさらに詰めていければと思う。

(5) . 4-(3) : 基本理念 (キャッチフレーズについて)

- 事務局 イメージとしては、基本理念なので、その施設で何をしたいのか、どんな場所にしていきたいのかという点を、なるべく具体的にわかるようなかたちで表せればと考えている。様々な要素を全体的に取り込んで表現できるフレーズであるとよい。
- 佐々木委員長 基本方針の1、2、3を要約したものになるのではないか。「宮代町らしさ」、「須賀らしさ」を入れるか入れないのかという点についても意識しながら、基本方針の肝は何なのかという観点から意見を出して頂ければと思う。
- 上田委員 須賀という言葉を入れられたら良い。
- 穴戸委員 「ぐるる」は、泳ぐ・走る・投げるの最後の字から名づけられている。学ぶ・集まる・つながるで「ぶるる楓」や「ぶるる須賀」はいかがか。キャッチフレーズとしては「学ぶ・集まる・つながる楓の木の下で リビング須賀」というのはいかがか。リビングは広くて、寛げる、みんなの居場所というイメージ。
- 唐松委員 「みんな」、「地域」、「交流」というのは共通したフレーズ。
- 川野委員 寛げる場所という意味で「リビング」という言葉は、誰にでも開かれた雰囲気になるので良いと思う。
- 上田委員 「人が立ち寄る、人が繋がる、人が育つ」は良いと思った。
- 佐々木委員長 「人」や「みんな」という言葉は良いと思う。

小坂委員 昔から地域に愛されているという点で「楓」という言葉が良いのではない  
か。

佐々木委員長 須賀らしさも出ており、フレーズの既成概念による縛りもないので良いと  
思う。

星野委員 「笑顔」、「笑う」というフレーズは楽しい雰囲気が出て、堅苦しくなく  
てよい。「子供」と「笑う」が入っていると柔らかいイメージとなるので  
「宮代で輪らって子（みやしろでわらってこ）」というのはいかがか。

唐松委員 キャッチフレーズは委員会で決めてよいのか。地域の方に公募はしないの  
か。

事務局 キャッチフレーズは住民公募でも良いと思うが、委員会において基本構想  
に入れる基本理念を決定したい。

佐々木委員長 地域とかエリアという言葉は固いが「この敷地内だけではない」というよ  
うなことを表すような何らかの表現がほしい。

唐松委員 これまでの意見をまとめると、あまりワードに凝ったキャッチコピー的な  
ものというよりは、この場所に何をいれていきたいのかがわかるような説  
明に近いフレーズの方がよいのではないか。

川野委員 今後の基本計画を作っていく人に伝われば良いと思うので、「学ぶ、つなが  
る」でも良いと思った。

谷委員 学校施設なので、「学ぶ」といった言葉はいいと思った。

高野委員 「集（あつ）まる」よりは「集（つど）う」といった言葉の方が、何かが  
生まれそうといったイメージがあり良いと思う。

石井委員 須賀や前原中学校区は、利便性も良くないので放っておいて人が増えるよ  
うな地区ではない。この地域拠点施設が人を呼ぶ材料になるのではないか。  
ここから派生して、ほかの地域の差別化になるといい。

星野委員 宮代町の中でも須賀は取り残されている印象がある。他の地域のイベント  
では人が集まっていたので、それを須賀でもできるような拠点施設にな  
ると良いのではないか。須賀、前原、百間の3地区で合同でイベントを実施  
するのも良いと思うので、その意味でも「広がる」という言葉は未来があ  
ると感じた。

中村委員 和戸に住んでいるが、子供会の数が減少している。町内会のイベントでも  
子供を集めることができず、頭がいたい。また通学の見守りのシニアが75  
歳以上となっており、人員不足となっている。高齢者を新たな須賀小学校  
にどのように運ぶか、来てもらうようにするのか、そこが大事だと思う。  
「和」という言葉が好きであり、この地域に「和」を作ってほしい。

(6) . 5：その他(今後のスケジュール)

事務局 今日いただきたい意見を基に、佐々木委員長とともに基本構想の内容を固めたい。6月にパブリックコメントを予定。この検討委員会は次年度に基本計画策定委員会として継続して協議していきたい。新体制移行後に、スケジュールについては改めてご連絡させていただく。

上田委員 次回の検討委員会はぜひ須賀小学校で実施していただきたい。  
佐々木委員長 基本構想の修正意見をいただいたので、さらに微修正等あればまたご連絡いただきたい。また、基本理念のキャッチフレーズについても多くのご意見をいただいたので、参考にさせていただきながら、事務局と決定させていただきたい。